

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 5年 2月 27日

事業所名 放課後等デイサービスURAURA八野 保護者等数(児童数) 27 回収数 17 割合 63 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100%	0%	0%	0%		活動内容や人数によって部屋を分ける等しています。中庭もよく利用しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	88%	12%	0%	0%	専門的な先生が多数おり安心	職員数は適切です。専門職にも活動を担当してもらうこともあります。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100%	0%	0%	0%		館内は全てバリアフリーとなっており、車両も車椅子対応となっています。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	94%	6%	0%	0%		支援計画の作成時にはご家族と面談をしています。児童の情報を普段から共有していきます。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	88%	12%	0%	0%	色々なことが体験できている。	イベントを1週間楽しめるよう〇〇ウィークとしていれていきます。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	47%	29%	18%	0%	コロナなので仕方がないとおもいます。	リモートでの交流を予定しています。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		必要に応じて紙面または、ラインでお知らせしていきます。個別に質問も受け付けます。
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	88%	12%	0%	0%		LINEに写真添付することで知ってもらえる事も増えてきました。話しやすい関係性を目指していきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	88%	12%	0%	0%	モニタリングのときにも細やかに教えてもらっている。	困りごとに対する的確に答えられるよう、また即時回答が難しいことも後日確実に返答できるように職員のスキルアップに努めます。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	41%	53%	6%	0%	コロナなので仕方がないとおもいます。特に希望しません。	制限がある中でリモートや、少人数制などでの開催の方法を考えていきます。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	88%	6%	6%	0%		管理者を中心に迅速に対応できるよう、職員間で共有していきます。朝終礼での申し送りや日誌への記入により職員全員が周知できるようにします。苦情があった場合、原因究明、改善し安心してご利用いただけるようにしていきます。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	82%	12%	6%	0%		LINEで写真を添付したり、個別にローマ字やひらがなで表記しています。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100%	0%	0%	0%	機関紙やお便り、いつも子供たちが満遍なく写っていて楽しみにしています。	自己評価表はHPで公表します。法人として、機関誌を定期的に配布また、事業所独自のものについては新聞を1回/月作成配布しています。
14 個人情報に十分注意しているか	100%	0%	0%	0%		写真の掲載に関しては、保護者様のご了承のもと実施していきます。	

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	82%	18%	0%	0%	保護者会等でみていただくようにします。個人的に希望があれば、貸出しもしていきます。
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	100%	0%	0%	0%	避難訓練として、防災、防犯などについての活動をしています。
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	88%	12%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に母が迎えに行くと「うらうらさん！」と怒るくらい楽しみにしています。 ・わかりません。 ・毎日楽しみにしております。 安心安全に、楽しく通っていただけるよう日々改善を図っていきます。
	18	事業所の支援に満足しているか	94%	6%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・大満足しています。 ・コロナ禍で活動が制限される中いろいろと考えていただきありがとうございます。 ご利用者1人1人と真摯に向き合い、更に安心してお任せいただける事業所を目指します。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 27日

事業所名 放課後等デイサービスURAURA八野

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	50%	50%	・コロナ感染予防の為壁向きにすわっていただいたり、部屋ごとに遊びを設定し、蜜になるのを避けた。 ・活動や年齢、でグループ分けして落ち着いて過ごせる場所の確保をしている。	感染症対策を踏まえた空間づくりを常に意識していく。 感染症を意識しつつ、支援内容の充実を図る
	2	職員の配置数は適切であるか	100%	0%	配慮が必要な児童には、1対1対応をしている。	送迎、見守り等バランスをみながらの職員配置を行っていく
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%	施設全体が、バリアフリーとなっている。	車いすでは利用しにくい狭い場所について物の置き場所等見直し改善していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	毎月の職員会議で話し合いをしている。	PDCAとしては取り組んでいないが会議での話し合いを行っていく。また、終礼での問題改善を続けていく。 ヒヤリハットを常に意識しながら、業務改善に繋げていく
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	アンケートから課題を抽出し、年間を通して取り組んでいる。	定期的を実施し、保護者ニーズや事業所改善につなげる
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公表している。	わかりやすい文章で伝えることを心がけていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	67%	33%		法人全体で第三評価について進めていく
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	コロナ渦で研修が難しくなっているが、リモートでの外部研修を行っている。会議の場で、虐待や発達に関する内部研修も行っている。	研修の機会を職員に割り振って資質向上に偏りがないようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	支援計画を作成する前にはできるだけ面談をしているが、コロナ渦で面談できないときは電話などでアセスメントを行った。	アセスメントを実施し、前年度と比較評価の実施 変化等保護者、保護者職員間で共有し、支援につなげる
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	担当を中心に検討を行っている。アセスメントシートを用意している。	1回/年アセスメントシートの見直し実施 全職員の共通認識を持ち適切な支援を行う
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	全員が活動プログラム案を出し、担当が中心となってまとめていく。	会議で活動内容についてアイデアを出し合い、決まったことがあれば共通理解できるようにしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	定型化しているプログラムとそうでないものがある。障がい状況によって変化を嫌うこともあるため、実施には柔軟に配慮している。	これまでの活動内容に、これまで控えてきた外出行事を入れていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	休日、長期休暇を利用し、曜日に偏りがないよう工夫している。	平日と休日の取り組みについて活動の立案の時点で話し合い活動担当が動きを決めていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	集団活動は、2つのプログラムを立て適しているほうに参加してもらっている。	毎回、集団活動に取り組んでいる。内容についてもこれまで通り保護者に伝えられるよう心掛ける。日によっては、個別の活動を充実していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	71%	29%	朝終礼で個別の対応について共有して起きたことなどを報告している。	朝終礼時や申し送りで全員に周知 改善点についても終了後実施し次につなげる
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終礼時の申し送りとして伝達された事は申し送りノートに記入している。 支援については日々の記録に記入している。	終礼時に申し送りの継続 支援の振り返りも行い、改善につなげる
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	50%	50%	日々の記録は、時間内に書ききれない事が殆どで次に日に書きこむこともある。	良かったこと、改善点など、次の支援につなげられるよう、簡潔明瞭に記録する書きやすい書式への変更
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	ケースMTを行っている。	定期的なモニタリングを実施し、計画の妥当性を判断している。遅れないようにしていく。 本人の成長やスキルに合った計画になるよう検討する
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	外部との交流をリモートで行った。	毎月の活動に組み入れ継続 児童の特性もあり、無理のない取り組みを検討する

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	時間が合わない場合もあり、毎回担当者にはならないが、事前に打ち合わせを行っている。	適した人材が参加するようにしているが、他職員にも聞き取りを行い、担当者会議で得た情報は共有を図る。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	不明なことがあれば、学校に連絡して対応してもらっている。困りごとについても学校に相談するなどしている。	学校との情報共有はされているが、これからも連絡調整を行っていく。1人1人の変化についても引継ぎの際などに共有を図る
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	17%	83%	医療的ケア児については看護師対応で聞き取りをします。	今後、医療的ケアの必要な子どもを受け入れた場合は、主治医との連絡体制を整えていく 看護師とも連携できるよう調整していく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	50%	ほとんどの方は、ご家族より情報をいただき進めている。	ご家族、計画相談事業所からの情報が多く、個人情報取り扱い重視されることが多い。 個人情報の取り扱いと並行して途切れない支援のための相互理解を深める必要がある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	実習などで学校より情報提供されているようですが、手立てとしてなかなか提供できることがあれば、学校や、移行先に提供していく。同じ事業所内での移行があり、支援の手立てを情報提供した。	事業所から問い合わせがあった場合、ご家族の理解を得られることを条件として途切れない支援のための情報共有ができるようにしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	必要に応じて行っている。研修などはあれば、参加している。	必要に応じて連絡し、助言をもらっている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	100%	0%	リモートでの交流する機会を作った。	必要性を感じていない保護者もみえ、無理せず機会があれば交流を考えていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	67%	33%	協議会に参加している。	自立支援協議会やくらし部会、児童分野についても参加を継続する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	LINEでの情報伝達が増えている。LINEを活用されていない保護者へはノートだけではなくよりわかりやすく伝えるようにしている。	SNSでの情報発信や、日々のやりとりの中で話しやすい関係作りをする
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50%	50%	LINEを気軽に利用してもらっているが、緊急の場合などは、管理職が相談に乗っている。	研修の機会を職員に割り振って資質向上に偏りがないようにする
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時や聞かれたときには説明をしている。	定期的な情報発信を行う中で、簡潔に丁寧に説明を実施する。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	悩みに対して職員間でも共有し困りごとへの対応を保護者と連携している。	困りごとの聞き取りを行い、事業所での様子をお伝えする等できる事を一緒に考えていく 必要に応じて計画相談につなげる
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17%	83%	今年度は、コロナ禍で保護者会は実施できなかった。その代わりにZOOM保護者をつなげ事業所の状況や児童の活動の様子等見てもらった	同じような困りごとを抱えている保護者に聞き取りをし、職員を通して共感していただく 必要に応じてつながれるようなツールを検討する
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	できるだけ早く苦情に対応できるように話し合っている。	苦情があった場合は保護者からよく話を聞き、職員間で原因究明、今後の対応について考えていく。 朝終礼での申し送りや日誌への記入で全体に周知する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	事業所新聞やLINEで様子を伝えられるようにしている。LINEのつながっていない方には月に1度やイベントの時など写真を印刷しお渡ししている。	法人機関誌、事業所新聞を発行し活動の様子を伝え、SNSを活用しその日の様子をどけている
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	通常どおりの事はしていると思っいるが、十分かどうかはわからない。	次年度、個人情報についての研修を計画 写真の掲載についてはプライバシーを意識しながら実行する
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	電話連絡、連絡帳、LINE、紙面を使い分けて情報伝達している。	SNSや連絡帳などでわかりやすく伝える。伝わりにくい場合には、丁寧に話をする。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	14%	86%	リモートでの交流する機会を作った。	コロナ禍での地域とのSNS等の活用を行う等、つながる方法を検討する 直接交流できる機会を徐々に増やせる内容を検討する

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	感染症対策については、何度が変更があり、その都度職員に周知されていた。大きな変更があれば、保護者に連絡をいれ対応していただいた。	感染症対策に限らず緊急時対応できるよう情報を共有していく。緊急時にはSNSを利用し職員、保護者に周知できるようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	定期的な避難訓練をしている。今年度は、コロナウイルス感染症の発生時に緊急の対応が必要になった。	3か月に1度の避難訓練や、施設全体での避難訓練を予定している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	虐待に関する研修機会を確保している。	虐待防止委員会を行い、啓発をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	車いすのベルト以外にはないが、ベルトの解除時間を記入する日誌に変更し記録を実施している。	今後もご家族と身体拘束について意識合わせをしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	アレルギーを記入したものを保護者より提出していただき、栄養士と連携している。おやつは、アレルギー表示をみて提供している。	契約時、保護者から具体的に聞き取りをし、制限を実施。生命の危険の恐れのある場合は指示書の提出を依頼する。アレルギーのような症状があれば、保護者にお伝えする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットは即日対策を立て朝終礼時に共有し月1のミーティングでより良い対策がないか確認している。	事例集を作成し、分析を実施職員と共有化を図り、次年度の改善につなげる